

＜香川県内の経済動向＞（平成 29 年 10 月 16 日作成）

現在の景気：緩やかな回復を続けている。

3 か月程度の見通し：緩やかな回復へ向けた動きが続くと考えられる。

個人消費：基調的には持ち直している。

8 月の百貨店・スーパー販売（速報値）は、前年比 1.2%減と 9 カ月連続で減少。店調後は前年比 0.8%減と 4 カ月連続で減少。8 月のコンビニエンスストア販売（速報値）は、前年比（店調前）0.9%増と 2 カ月ぶりに増加。8 月の専門量販店販売（速報値）は、家電大型専門店が前年比（店調前）3.6%増と 2 カ月連続で増加、ドラッグストアが同 5.6%増と 29 カ月連続で増加、ホームセンターが同 1.3%減と 2 カ月連続で減少。8 月の乗用車新車販売は、軽乗用車で前年比 3.7%と減少したものの、普通乗用車で同 0.1%増、小型乗用車で同 10.7%と増加し、全体では前年比 1.4%増と 10 カ月連続で増加。

住宅建築：基調的には持ち直している。

8 月の住宅着工戸数は、持家で前年比 22.4%と減少したものの、貸家で同 27.5%増、分譲住宅で同 10.3%と増加し、全体では前年比 0.8%増と 5 カ月連続で増加。

設備投資：持ち直しの動きがみられる。

「全国企業短期経済観測調査結果（2017 年 9 月）-香川県-」における 2017 年度のソフトウェア・研究開発を含む設備投資額（除く土地投資）は、全産業で前年度比 21.4%増加見込み。

公共工事：振れを伴いつつも高水準で推移。

8 月の公共工事請負額は、国・独立行政法人等で前年比 58.9%と増加したものの、県で同 10.2%減、市町で同 26.7%と減少し、全体では前年比 8.2%減と 2 カ月ぶりに減少。4～8 月の年度累計では前年比 14.6%減少。

輸出：底堅く推移。

8 月の県内通関輸出額は、主要品目である船舶で前年比 106.3%増となり、全体では前年比 84.6%増と 2 カ月連続で増加。1～8 月の累計では前年比 12.2%増加。

生産活動：振れを伴いつつも緩やかな持ち直しの動きがみられる。

7 月の鉱工業生産指数（季調済）は、前月比 6.0%上昇し、104.0 と 2 カ月連続で上昇。原指数は、前年比 4.2%上昇し 105.3 と 3 カ月ぶりに上昇。はん用・生産用機械工業（貯蔵槽・クレーン）、電気機械工業（半導体集積回路・開閉制御装置）などで上昇。化学・石油石炭製品工業（医薬品）、プラスチック製品工業（フィルム・シート）などで低下。

観光：堅調に推移。

8 月の県内テーマパークを含めた主要観光地の入込客数は、前年比 7.2%増と 6 カ月連続で増加。1～8 月の累計では前年比 7.8%増加。

雇用情勢：好調に推移。

8月の有効求人倍率（季調済）は、前月比0.01ポイント上昇の1.74倍。新規求人数（原数値）は、製造業、宿泊業、飲食サービス業等で増加し、全体では前年比1.3%増と2カ月ぶりに増加。

（トピックス）

○香川県は、居住市町と同じ市町で働いている人の割合が、全就業者のうち70.6%（31万3,427人）となり、全国平均の56.0%より14.6ポイント高いことが、県などのまとめで分かった。2015年国勢調査から抽出した「従業地・通学地による人口・就業状態等集計結果」を基に、県が集計した。市町別にみると、直島町の96.6%が一番高く、高松市87.9%、小豆島町84.1%、土庄町81.7%、東かがわ市73.7%、観音寺市72.9%などとなっている。県統計調査課は「県内の各市町にはしっかりと地場産業があるところが多く、居住地近くでの就業を増やす一つの要素になっている」と分析。今後、県出身学生の地元就職や移住者の獲得に向け、データが示すような働きやすさもPRしていきたいとした。

項目	変化方向			評 価				
	好転	不変	悪化	晴	晴一部曇	曇	曇一部雨	雨
現在の景気	○	●	○	○	○	●	○	○
3か月程度の見通し	○	●	○					
個人消費	○	●	○	○	○	●	○	○
住宅建築	○	●	○	○	●	○	○	○
設備投資	○	●	○	○	○	●	○	○
公共工事	○	●	○	○	●	○	○	○
輸出	○	●	○	○	○	○	●	○
生産活動	○	●	○	○	○	○	●	○
観光	○	●	○	○	○	●	○	○
雇用情勢	○	●	○	○	●	○	○	○
企業収益	○	●	○					
企業倒産	○	●	○					
資金需要	○	●	○					